

第56回 関西財界セミナー宣言

われわれは、第56回関西財界セミナーにおいて、「いざ、舞台を関西へ ～関西からはじまる未来社会のデザイン～」をテーマに議論を行った。これを踏まえ、以下の通り宣言する。

1. われわれは、大阪・関西での2025年国際博覧会の開催実現に向け、政府・地元自治体と一体となり、誘致を勝ち取る。また、ゴールデン・スポーツイヤーズ(2019～21年)を見据え、スポーツを「する」「みる」「支える」ための体制を構築するとともに、関西観光本部を中心としたさらなるインバウンド拡大に取り組み、広域観光を進める。そして、これらの国際イベントも活かしながら、若者や女性、外国人も主役として参画しうる舞台を形成し、世界が直面する課題を克服した未来社会像を関西から世界に示すことで持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献していく。(第1分科会)
2. われわれは、創造力の源泉である文化の可能性を信じ、関西の歴史と伝統により生まれた文化の力を活用することによって、より豊かな感性と発想力に富む人材の育成に取り組む。また、世界中から多彩な人々を惹きつけるために、関西全体で連携を図り、その姿を情報発信する。これにより、知の交流を促し、イノベーションを起こし、新しい産業を生み出していく。そして、文化庁の京都移転の好機も活かし、関西の多様で魅力溢れる文化資源を産官学一体となって磨き上げ、国際的都市間競争を勝ち抜いていく。(第3分科会)
3. われわれは、急成長を遂げるアジア市場での積極的な事業展開に加え、アジアから関西への投資も促す戦略的かつ互恵的なルック・ウエストの視点による独自の経済成長を目指す。先進的な技術やサービス、経営手法と高度なスキルを持つ人材を有する海外企業の事例に学び、企業経営に活かすことでビジネスを拡大していく。これまで培ってきた様々な交流を基に、アジア各国と関西の経済団体の双方向コミュニケーションを図る仕掛けを通じ、共にさらなる発展を実現する。(第5分科会)
4. われわれは、関西地域に集積する優れた大学・研究機関、企業等の連携のもと、先進的な技術やビジネスモデルを有する企業や多様な人材を、広く国内外から呼び込むことで、魅力あるイノベーション・エコシステムの構築を目指す。特に関西が強みを持ち、次世代の成長が見込まれる分野を中心に産業振興に取り組むことで、世界有数のイノベーション拠点として社会課題を解決し、日本経済の成長を牽引する役割を果たす。(第2分科会)
5. われわれは、「働き方改革」を長時間労働の是正や業務効率改善の打ち手に留めることなく、イノベーションを生み出し、付加価値を高めるための経営戦略であると位置付け、活動を先導する。そのために、人々の多様性と個性を活かすマネジメントを実践し、社員が能力を最大限に発揮できる環境整備に努めることで、自律性の高い人材を育成する。そして、過去の雇用慣行にとらわれない新たな働き方を追求することで、真の生産性向上を実現し、企業の競争力向上を図る。(第4分科会)
6. われわれは、今日のグローバル資本主義の功罪を見極め、目指すべき社会のあり方に相応しいシステムを模索していく。一方、イノベーションを成長に繋げ、今後一段と熾烈さを増すグローバル競争を勝ち抜くには、過去の成功体験や自前主義と決別し、これまで以上に稼ぐ力を向上させることが求められる。その為に、短期と長期の調和の取れた戦略をスピード感を持って実行するとともに、ステークホルダーとの健全な対話を通じ、社会的価値向上に資する成長を目指す。(第6分科会)

上記に加え、関西は観光立国推進の観点から、夢洲へのMICE・IRの誘致実現を目指す。政府には、経済基盤の一層の強化に向け、リニア中央新幹線、北陸新幹線の大阪までの早期開業、域内鉄道の早期整備、高速道路のミッシングリンクの早期解消、関西の3空港の最適活用や空港アクセスの強化等による交通・物流インフラ整備・活用への後押しに加え、産業活動の基盤として、安全性が確認された原子力発電所の早期再稼働をはじめとする低廉なエネルギーの安定供給の実現を強く求める。また、地方創生・地方分権を推進するとともに、財政健全化と経済成長の両立に向け、成長戦略のスピードを上げた実行と歳出・歳入両面での改革を着実に進め、早期のプライマリーバランス黒字化の実現を求める。